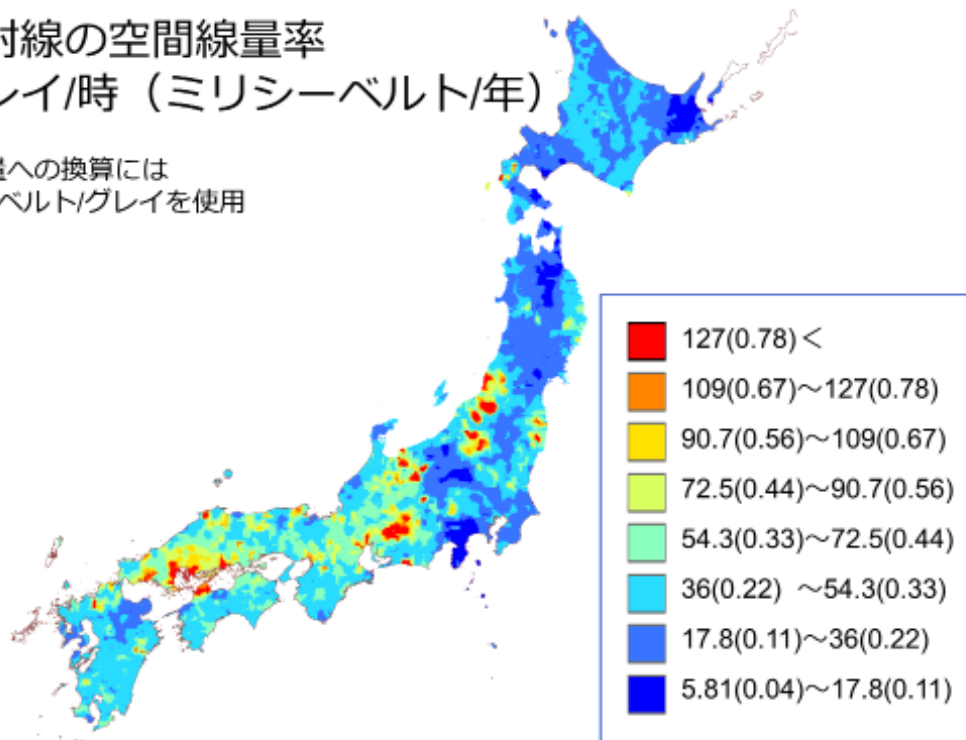


自然放射線の空間線量率  
ナノグレイ/時（ミリシーベルト/年）

・実効線量への換算には  
0.7シーベルト/グレイを使用



出典：日本地質学会ウェブサイトより作成

自然放射線は、地質や土壤に含まれる放射性物質の違いによって、地域ごとに強さが異なります（上巻P67「大地の放射線（世界）」）。日本国内でも同じように、大地からの放射線量が高い所と低い所があります。県単位で比較すると空間線量率は、最も高い岐阜と最も低い神奈川では年間0.4ミリシーベルトの差があるといわれています。

関東平野では地質に含まれる放射性核種が少なく、概して大地からの放射線量は少なくなっています。一方、花崗岩には、ウラン、トリウム、カリウム等の放射性核種が比較的多く含まれていることから、花崗岩が直接地表に露出している場所が多い西日本では、東日本より1.5倍ほど大地からの放射線量が高い傾向があります。

（関連ページ：上巻P8「自然由来・人工由来」）

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2026年3月31日